

平成30年度政策経営基本方針の概要

29.10.10 栃木県

1 県政を取り巻く現状と課題

- (1) 我が国経済の現状と課題
- (2) 地方創生の新展開
- (3) 東京オリンピック・パラリンピック競技大会等へ向けたアクション

2 平成30年度における政策経営の基本的考え方

- ・ 「とちぎ創生15戦略」の取組をさらに加速させる。特に移住定住対策や新技術の活用、あらゆる人材の活躍支援等による安定したしごとづくり、本県の魅力の発信に力を注ぐことが必要。
- ・ 県内のどの地域に住んでいても、安心して暮らし続けられる環境の整備が求められる。
- ・ 「東京オリンピック・パラリンピック等に向けたとちぎビジョン」に基づく各種施策の効果を本県の活性化につなげるとともに、5年後に本県で開催される国民体育大会や全国障害者スポーツ大会の成功へ向けた着実な準備が必要。
- ・ 計画期間の中間年を迎える「とちぎ元気発信プラン」の各プロジェクトを着実に推進する。
- ・ 職員各自が業務効率の向上に対する意識を高め、絶えず業務執行の手法や職場環境を見直すなど、本県における働き方改革をリードする業務執行方法の確立に努める。

3 平成30年度政策経営実施方針

(1) 「とちぎ元気発信プラン」及び「とちぎ創生15戦略」の更なる推進

元気発信プラン及び15戦略の推進に当たり、一部目標値の上方修正を行った上で平成30年度のマネジメントから適用し、適切な政策評価と積極的な施策の実行に取り組む。

また、15戦略の展開に当たっては、引き続き「とちぎ創生15戦略評価会議」における意見聴取、「とちぎ地方創生推進会議」の活用等により、オール栃木体制で取り組む。

(2) 平成30年度に取り組む重点事項

ア とちぎ創生に向けた取組の加速

- ・ U I J ターン^{ゼロ}の推進、本県企業の I o T 技術の活用促進、女性が働きやすい職場環境の整備、県内企業の人材確保・育成、DCを踏まえた関西圏における本県の魅力の発信機会の創出、本県農業の将来像を視野に入れた園芸生産の拡大

イ 安全・安心なとちぎづくり

- ・ 「逃げ遅れによる人的被害0」を目指した水防災意識社会の再構築、地域住民による主体的な集落機能の維持・再生活動の促進、公共交通におけるユニバーサルデザイン化支援、妊娠・出産から子育てまで切れ目のない支援の仕組みづくり、障害児が地域や在宅で安心して暮らせる環境づくり

ウ 東京オリンピック・パラリンピック、国民体育大会・全国障害者スポーツ大会に向けた着実な取組

- ・ オリ・パラムーブメントの機運醸成、とちぎ版文化プログラムに基づく本県文化の振興、とちぎブランドの確立に向けた本県の魅力等の戦略的な発信、スポーツ医・科学分野の知見を活用した支援の充実、市町と連携した競技施設整備、国民体育大会及び全国障害者スポーツ大会の一体的・効果的PR

(3) 予算編成の考え方

「とちぎ行革プラン2016」に掲げた財政健全化の取組を着実に実行するとともに、選択と集中の考え方に基づき、歳入歳出全般にわたり徹底した見直しを行った上で必要な財源を確保し、元気発信プラン及び15戦略に掲げた施策の更なる推進のほか、新たな行政課題等への的確な対応を図る。

(4) 組織運営の考え方、行財政改革の推進等

職員一人一人が複雑・多様化する行政課題に臆せず、挑戦する気概を持って職務にあたるとともに、それぞれのワーク・ライフ・バランスにも配慮しながら、管理監督の職にある者が率先して労働生産性の向上に努める。

行革プランの各種取組を着実に進めるとともに、自主的・自律的な行財政運営の基礎となる事務・権限や税財源の地方への移譲を国に働きかけ、地方分権改革を推進する。